

ドイツ文学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
ドイツ文学特論Ⅰ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(3)	2	佐藤 雪野	1学期	火	2	1
ドイツ文学特論Ⅱ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(4)	2	佐藤 雪野	2学期	火	2	2
ドイツ文学特論Ⅲ	近現代ドイツ・オーストリア文学概論	2	里村 和秋	集中(2学期)			3
ドイツ文学研究演習Ⅰ	批評演習 1	2	森本 浩一	1学期	金	3	4
ドイツ文学研究演習Ⅱ	批評演習 2	2	森本 浩一	2学期	金	3	5
ドイツ文学研究演習Ⅲ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生 —— レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(Ⅱ)	2	佐藤 研一	1学期	木	4	6
ドイツ文学研究演習Ⅳ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生 —— レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(Ⅲ)	2	佐藤 研一	2学期	木	4	7
ドイツ文化学特論Ⅰ	近現代ドイツ短編小説講読	2	嶋崎 啓	1学期	金	2	8
ドイツ文化学特論Ⅱ	近現代ドイツ短編小説講読	2	嶋崎 啓	2学期	金	2	9
ドイツ文化学研究演習Ⅰ	ドイツ文化学研究演習Ⅲ	2	ナロック ハイコ	1学期	火	3	10
ドイツ文化学研究演習Ⅱ	ドイツ文化学研究演習Ⅲ	2	ナロック ハイコ	2学期	火	3	11
ドイツ文化学研究演習Ⅲ	中高ドイツ語講読	2	嶋崎 啓	1学期	月	2	12
ドイツ文化学研究演習Ⅳ	中高ドイツ語講読	2	嶋崎 啓	2学期	月	2	13
課題研究 (ドイツ文学)		4	森本 浩一 嶋崎 啓	通年	水	5	

科目名：ドイツ文学特論 I / German Literature(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：佐藤 雪野 (兼務教員)

講義コード：LM12202, **科目ナンバリング：**LHS-LIT630J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ドイツ (語) 文化圏の文化と歴史 (3)

2. Course Title (授業題目)：

Culture and History of German Cultural Sphere (3)

3. 授業の目的と概要：

広い意味でのドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、余り知られていないドイツ以外のドイツ (語) 文化圏に着目する。

今学期はヨーロッパ東部に居住している (いた) ドイツ人が、なぜそこに移り住んだのか、周辺異民族とどのように交流しつつ、自らの文化を維持し、発展させ、アイデンティティを形成したかを検討する。

そのために、ドイツ語で書かれたテキストを精読し、ドイツ語の読解力も高める。

4. 学習の到達目標：

1. ドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション

2. Die Siedlung Deutscher in Osteuropa

3. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (1)

4. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (2)

5. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (3)

6. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (4)

7. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (5)

8. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (6)

9. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (1)

10. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (2)

11. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (3)

12. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (4)

13. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (5)

14. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (6)

15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点 (出席、アサインメント、発言状況) : 70%

期末課題 : 30%

7. 教科書および参考書：

テキスト : Dralle, Lothar, Die Deutschen in Ostmittel- und Osteuropa: Ein Jahrtausend europäischer Geschichte, Darmstadt: Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 1991.

その他参考書等については、随時指示する。

8. 授業時間外学習：

予習中心 : テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

9. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明 (オフィス・アワー、講師への連絡方法など) は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学特論Ⅱ／ German Literature(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：佐藤 雪野 (兼務教員)

講義コード：LM22202, **科目ナンバリング：**LHS-LIT631J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ドイツ (語) 文化圏の文化と歴史 (4)

2. Course Title (授業題目)：

Culture and History of German Cultural Sphere (4)

3. 授業の目的と概要：

広い意味でのドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、余り知られていないドイツ以外のドイツ (語) 文化圏に着目する。

今学期はかつてプラハに存在したドイツ文化空間の特性を、ユダヤ人との関係に注目しつつ検討する。

そのために、初版が 1916 年に出版されたグスタフ・マイリンクの『ゴーレム』をテキストとして精読し、作品とその背景を考察する。

4. 学習の到達目標：

1. ドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を理解する。
2. ドイツ語の読解力を向上させる。
3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. プラハのドイツ語文学について
3. グスタフ・マイリンクとゴーレム
4. Golem: Prag (1)
5. Golem: Prag (2)
6. Golem: Prag (3)
7. Golem: Punsch (1)
8. Golem: Punsch (2)
9. Golem: Punsch (3)
10. Golem: Punsch (4)
11. Golem: Nacht (1)
12. Golem: Nacht (2)
13. Golem: Nacht (3)
14. Golem: Wach
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点 (出席、アサインメント、発言状況) : 70%

期末課題 : 30%

7. 教科書および参考書：

テキスト : Meyrink, Gustav, Golem, Augsburg: Weltbild, 1994. 他の版でも可。

その他参考書等については随時指示する。

8. 授業時間外学習：

予習中心 : テキストをよく読んでおくこと。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

9. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明 (オフィス・アワー、講師への連絡方法など) は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学特論Ⅲ／ German Literature(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中

学期：集中（2学期）、 **単位数：**2

担当教員：里村 和秋（非常勤講師）

講義コード：LM98807、 **科目ナンバリング：**LHS-LIT632J、 **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近現代ドイツ・オーストリア文学概論

2. Course Title (授業題目)：

Modern literature and culture of German and Austrian language Sphere

3. 授業の目的と概要：

中欧に位置するドイツおよびオーストリアは、民族の大移動以来、地政学的な条件から、周辺各国との間で相互に大きな影響関係を持ちながら独自の文化を形成してきた。この授業では、「ヨーロッパ」の文脈を意識しながら、19世紀以降のドイツおよびオーストリアの文学を概観し、文学作品の読解・分析を通じて、それぞれの作家の文学作品のテーマや様式の特徴を把握することを目的とする。特に同じドイツ語圏にありながら、ドイツ文学とは異なる特徴を持つオーストリア文学について、その歴史的経緯や文化的背景との関連からアプローチする。

4. 学習の到達目標：

近現代のドイツ語圏の文学作品を概観しながら、言語やアイデンティティ、社会や政治などの問題が文学作品にどのように反映しているかを確認し、その特徴を理解できるようにする。特に、ドイツ文学と深い影響関係を持ちながらも異なる発展を遂げたオーストリア文学について、その知識を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス（近現代ドイツ・オーストリア文学の諸問題）
- 2 ビーダーマイヤー期（グリルパルツァー・シュティフター）
- 3 ウィーン民衆劇1（ライムント）
- 4 ウィーン民衆劇2（ネストロイ）
- 5 カフェ文化と文学
- 6 世紀末オーストリア文学
- 7 アルトウール・シュニッツラー
- 8 ホフマンスタール1（概論）
- 9 ホフマンスタール2（散文作品）
- 10 ホフマンスタール3（演劇作品）
- 11 ウィーンと都市問題
- 12 ナチスとプロパガンダ
- 13 ヘッセ1（前期）
- 14 ヘッセ2（後期）
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の平常点 40%と期末レポート 60%によって評価を行う。平常点は、授業において扱うテキストを正確に理解できているかどうかを評価する。期末レポートでは、課題に従って、説得力のある論理的な議論が展開できているかどうかを評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：プリントを配布する。参考書：原研二『物語と不在—十九世紀オーストリア小説とミュージル』、クラウディオ マグリス『オーストリア文学とハプスブルク神話』、田口 晃『ウィーン—都市の近代』（岩波新書）、飯田 道子『ナチスと映画』（中公新書）など。

8. 授業時間外学習：

授業ではテキストの講読も行うので、講義に先立って配布するテキストをあらかじめ読んでおくこと。また講義終了後提出する期末レポートについてテーマを選定し、そのための事前調査・資料収集を行っておくこと。

9. その他：

事前の授業に関する問い合わせは、satomura@law.seikei.ac.jp までお願いします。

科目名：ドイツ文学研究演習 I / German Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LM15302， 科目ナンバリング：LHS-LIT633J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

批評演習 1

2. Course Title (授業題目)：

Critical Practice (A Seminar)

3. 授業の目的と概要：

様々なタイプの物語作品を対象として、実際に批評的テキストを作り出す訓練を行う。作品解釈において、形式や内容のどのような点に着目し、どのような言葉で自らの解釈を表現するかを、相互の議論の中で検討してゆく。

4. 学習の到達目標：

作品を批評する能力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 導入

第 2 回～第 14 回 批評演習

第 15 回 まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、各回の批評文の提出と討議への参加（80％）およびレポート（20％）。

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

自らの批評文等の指定された提出物は、必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp
(森本浩一)

科目名：ドイツ文学研究演習Ⅱ／ German Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LM25302， 科目ナンバリング：LHS-LIT634J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

批評演習 2

2. Course Title (授業題目)：

Critical Practice (A Seminar)

3. 授業の目的と概要：

様々なタイプの物語作品を対象として、実際に批評的テキストを作り出す訓練を行う。作品解釈において、形式や内容のどのような点に着目し、どのような言葉で自らの解釈を表現するかを、相互の議論の中で検討してゆく。

4. 学習の到達目標：

作品を批評する能力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 導入

第2回～第14回 批評演習

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、各回の批評文の提出と討議への参加（80％）およびレポート（20％）。

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

自らの批評文等の指定された提出物は、必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp（森本浩一）

科目名：ドイツ文学研究演習Ⅲ／ German Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：佐藤 研一 (非常勤講師)

講義コード：LM14401, **科目ナンバリング：**LHS-LIT635J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

十八世紀ドイツ戯曲の誕生—— レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(II)

2. Course Title (授業題目)：

Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (II)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にほかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシング (1729-81) の喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767) を前年度にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』(1772) を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J. M. R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774) や喜劇『軍人たち』(1776) 等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を念頭に置いて、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』の台詞を一言一句を味わいつつ、語学上および文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。

4. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

1. オリエンテーション
2. Zweiter Aufzug, Erster Auftritt
3. Zweiter Aufzug, Erster Auftritt
4. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt
5. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt
6. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt
7. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt
8. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt
9. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt
10. Zweiter Aufzug, Dritter Auftritt, Vierter Auftritt, Fünfter Auftritt
11. Zweiter Aufzug, Sechster Auftritt
12. Zweiter Aufzug, Siebenter Auftritt, Achter Auftritt
13. Zweiter Aufzug, Neunter Auftritt
14. Zweiter Aufzug, Neunter Auftritt
15. Zweiter Aufzug, Neunter Auftritt

6. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]

7. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) はプリントで配布する。
参考文献はつぎのとおり。

- ・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004.
- ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001.
- ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004.
- ・柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986 年。
- ・坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996 年。

8. 授業時間外学習：

古代ギリシア悲劇から現代劇まで貪欲に戯曲の世界と触れること。

9. その他：

科目名：ドイツ文学研究演習Ⅳ／ German Literature(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：佐藤 研一 (非常勤講師)

講義コード：LM24401, **科目ナンバリング：**LHS-LIT636J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(III)

2. Course Title (授業題目)：

Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (III)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にほかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシング(1729-81)の喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767)を前学期にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』(1772)を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774)や喜劇『軍人たち』(1776)等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巣食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を念頭に置いて、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』の台詞を一言一句を味わいつつ、語学上および文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。

4. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

1. オリエンテーション
2. Dritter Aufzug, Erster Auftritt, Zweiter Auftritt
3. Dritter Aufzug, Zweiter Auftritt
4. Dritter Aufzug, Zweiter Auftritt
5. Dritter Aufzug, Dritter Auftritt
6. Dritter Aufzug, Dritter Auftritt, Vierter Auftritt
7. Dritter Aufzug, Vierter Auftritt
8. Dritter Aufzug, Fünfter Auftritt
9. Dritter Aufzug, Fünfter Auftritt, Sechster Auftritt
10. Dritter Aufzug, Siebenter Auftritt
11. Dritter Aufzug, Siebenter Auftritt
12. Dritter Aufzug, Siebenter Auftritt
13. Dritter Aufzug, Achter Auftritt, Neunter Auftritt, Zehnter Auftritt
14. Dritter Aufzug, Zehnter Auftritt
15. Dritter Aufzug, Elfter Auftritt, Zwölfter Auftritt

6. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]

7. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) はプリントで配布する。参考文献はつぎのとおり。

- ・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004.
- ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001.
- ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004.
- ・柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986 年。
- ・坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996 年。

8. 授業時間外学習：

古代ギリシア悲劇から現代劇まで貪欲に戯曲の世界と触れること。

9. その他：

科目名：ドイツ文化学特論 I / German Culture(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LM15203, **科目ナンバリング：**LHS-LIT637J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近現代ドイツ短編小説講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Modern German Short Stories

3. 授業の目的と概要：

ドイツ語で書かれた短編小説を原文で読み、内容を理解し、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の魅力を探る。今学期は Brentano: Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl を読む予定である。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語で書かれた小説を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。
作品の内容について自分なりの解釈ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 1
- 3 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 2
- 4 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 3
- 5 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 4
- 6 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 5
- 7 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 6
- 8 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 7
- 9 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 8
- 10 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 9
- 11 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 10
- 12 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 11
- 13 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 12
- 14 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 13
- 15 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 14

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch やインターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

9. その他：

科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ／ German Culture(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LM25202, **科目ナンバリング：**LHS-LIT638J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近現代ドイツ短編小説講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Modern German Short Stories

3. 授業の目的と概要：

ドイツ語で書かれた短編小説を読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の魅力を探る。今学期も先学期に引き続き、Brentano: Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl を読む予定である。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語で書かれた小説を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。
作品の内容について自分なりの解釈ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 1
- 3 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 2
- 4 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 3
- 5 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 4
- 6 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 5
- 7 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 6
- 8 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 7
- 9 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 8
- 10 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 9
- 11 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 10
- 12 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 11
- 13 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 12
- 14 Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl 講読 13
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch やインターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

9. その他：

科目名：ドイツ文化学研究演習Ⅰ／ German Culture(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LM12307， 科目ナンバリング：LHS-LIT641J， 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

ドイツ文化学研究演習Ⅲ

2. Course Title (授業題目)：

German Culture(Advanced Seminar)Ⅲ

3. 授業の目的と概要：

大学で必要となる言語活動ができるドイツ語能力を少しでも身につける。

ドイツ留学を想定した教材または受講者が提示する素材を利用する。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語圏の大学環境に必要なドイツ語能力の一部を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Sprechen, Schreiben, Mitreden

1. Freizeit
2. Sport
3. Tourismus
4. Stadt und Land
5. Ehe und Familie
6. Schule
7. Wissenschaft und Zukunft
8. Computer
9. Medien
10. Werbung
11. Umweltschutz
12. Rollenverteilung
13. Generationen
14. Medizin
15. Kultur

6. 成績評価方法：

毎回の授業参加、課題、宿題に基づく。

7. 教科書および参考書：

Glott-Kastanis, J. & D. Tippmann. 2008. Sprechen. Schreiben. Mitreden. Christos Karabatos.
Campus Deutsch. Schreiben. Hueber. 2015.

8. 授業時間外学習：

授業の準備、宿題

9. その他：

科目名：ドイツ文化学研究演習Ⅱ／ German Culture(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LM22308， 科目ナンバリング：LHS-LIT642J， 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

ドイツ文化学研究演習Ⅲ

2. Course Title (授業題目)：

German Culture(Advanced Seminar)Ⅲ

3. 授業の目的と概要：

大学で必要となる言語活動ができるドイツ語能力を少しでも身につける。

ドイツ留学を想定した教材または受講者が提示する素材を利用する。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語圏の大学環境に必要なドイツ語能力の一部を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Sprechen, Schreiben, Mitreden

16. Ausländer

17. Arbeit und Arbeitslosigkeit

18. Suchtkrankheiten

19. Kriminalität

20. Mitmenschen

21. Entwicklungshilfe

22. Gentechnologie

23. Frieden

24. Tradition

25. Aussteiger und Randgruppen

26. Menschenrechte und Gesetze

27. Vorurteile

28. Sprache

29. Geld und Wirtschaft

30. Historische Persönlichkeiten

6. 成績評価方法：

毎回の授業参加、課題、宿題に基づく。

7. 教科書および参考書：

Glottz-Kastanis, J. & D. Tippmann. 2008. Sprechen. Schreiben. Mitreden. Christos Karabatos. Campus Deutsch. Schreiben. Hueber. 2015.

8. 授業時間外学習：

授業の準備、宿題

9. その他：

科目名：ドイツ文化学研究演習Ⅲ／ German Culture(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LM11201， 科目ナンバリング：LHS-LIT643F， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中高ドイツ語講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading "Nibelungelied" in middle high German

3. 授業の目的と概要：

ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200 年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。

4. 学習の到達目標：

中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1
- 3 中高ドイツ語入門 2
- 4 中高ドイツ語入門 3
- 5 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1
- 6 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2
- 7 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3
- 8 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4
- 9 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5
- 10 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6
- 11 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7
- 12 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8
- 13 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9
- 14 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10
- 15 「ニーベルンゲンの歌」 講読 11

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997.

参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、『ニーベルンゲンの歌』（相良守峯訳）岩波文庫、『ニーベルンゲンの歌』（岡崎忠弘役）鳥影社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.

8. 授業時間外学習：

前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をすること。

9. その他：

講読する箇所は先学期からの続きである。

科目名：ドイツ文化学研究演習Ⅳ／ German Culture(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LM21201, **科目ナンバリング：**LHS-LIT644F, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中高ドイツ語講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading "Nibelungelied" in middle high German

3. 授業の目的と概要：

ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200 年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。

4. 学習の到達目標：

中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1
- 3 中高ドイツ語入門 2
- 4 中高ドイツ語入門 3
- 5 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1
- 6 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2
- 7 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3
- 8 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4
- 9 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5
- 10 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6
- 11 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7
- 12 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8
- 13 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9
- 14 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10
- 15 「ニーベルンゲンの歌」 講読 11

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997.

参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、『ニーベルンゲンの歌』（相良守峯訳）岩波文庫、『ニーベルンゲンの歌』（岡崎忠弘役）鳥影社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.

8. 授業時間外学習：

前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をすること。

9. その他：

講読する箇所は先学期からの続きである。